第１学年　音楽科学習指導

１　題材名　　「海外の留学生に我が国の伝統的な楽器を紹介しよう」（篠笛）

２　題材の目標

（１）篠笛の音色や旋律と奏法及び，口唱歌との関わりを理解するとともに，創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能を身に付ける。

（２）篠笛の音色や旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。

（３）篠笛の文化・歴史，素材や奏法による篠笛特有の音色に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組むとともに，我が国の伝統音楽に親しむ。

３　教材名　「●●七番町祭囃子」

４　本題材で扱う学習指導要領の内容

第１学年　（「A 表現」（２）器楽）

○「A 表現」（２）器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，器楽表現を創意工夫すること。

イ（イ）楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能

〔共通事項〕（１）

（本題材において，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「旋律」）

５　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　篠笛の音色や旋律と奏法及び口唱歌との関わりについて理解している。 技　創意工夫を生かした表現で篠笛を演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，器楽で表している。	思　篠笛の音色や旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態　篠笛の文化・歴史，素材や奏法による篠笛特有の音色に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に我が国の伝統音楽を伝える活動に取り組もうとしている。

６　題材と指導の構想（研究主題との関わり）

新潟市中学校教育研究会研究主題 「感性を働かせて，仲間と共に音楽に関わり続ける生徒の育成」 ～郷土の音楽を篠笛で吹く活動を通して～

本題材はこれを受けて授業を行う。

＜主題設定の理由＞

生徒は，思いや意図をもって表現を追求したり，感じ取ったことを基に音楽のよさを見出したりする動を通して，主体的に音楽に親しんでいる。また，自分の思いや感じ取ったことを互いに交流し合うことを通して，仲間と共に音楽のもつよさを明らかにしようとしている。

これまでの音楽の実践を基盤に，感性を働かせて主体的に音楽とかかわる活動を通して，曲想，音楽の構造や仕組み，音楽の背景などと関わらせて，音楽のもつよさや価値を明らかにしていく生徒を育成したいという願いから，この主題を設定した。

（１）題材観

平成 10 年告示の「中学校学習指導要領」で音楽の内容は和楽器の表現活動が必修となり，我が国や郷土の伝統音楽の学習をしながら「自ら学び　自ら考える」ことが強調された。そして平成 20 年告示の学習指導要領では長唄や民謡などの日本の伝統的な歌唱の必修化などが示された。

現在はグローバル社会にあって人々の生活様式にも変化が生まれ始めている。これからの時代，日本だけではなく海外にも活動の場を置く生徒や異文化に触れる環境の中で活躍する生徒が増えてくることが考えられる。

当校では昨年度まで和楽器「箏」を取り扱って授業を行っていたが，中学校卒業後も生涯にわたって日本の古典音楽に親しんでほしという想いと手軽に持ち運びができ，いつでもどこでも誰にでも紹介することが可能な和楽器「篠笛」を今年度から和楽器の表現活動（器楽）の楽器として取り扱うことにした。篠笛が届いた日，生徒たちが自分の楽器として篠笛を手にしたときの嬉しそうな表情やアルトリコーダーとの違い，なかなか音が出ないが粘り強く練習に励み，初めて自分の篠笛から音が出たときの目の輝きは忘れることができない。そんな生徒たちの表情や様子を見ていると篠笛はとても魅力的な和楽器であることが分かる。

今年度の授業では，ただ演奏技能の向上だけでなく，篠笛の構造や奏法による音色の違いに関心をもたせながら，我が国の伝統音楽の素晴らしさを海外の留学生に自分たちの演奏で紹介する場面を取り入れることにする。

（２）教材観

今回の教材で取り扱う曲は，地元「●●まつり」の前夜祭で町内ごとに山車を引いて練り歩くときに演奏する「●●七番町祭囃子」である。中学校区は，「●●まつり」があり古くから伝わる祭囃子が演奏されているという恵まれた環境にあり，授業において郷土の音楽を取り上げたいという授業者の願いがある。

町内ごとに異なる祭囃子はどれも魅力的であるが，本題材では，主に２音構成であることなど，技能的にも比較的平易である本教材を取り扱うこととした。実際の祭囃子では甲音（呂音より１オクターブ高い音域）で演奏されるが，本題材では音の出しやすい呂音を扱うこととする。

（３）生徒観

生徒は，６月に篠笛で「たこたこあがれ」「いちばんぼし」「岸辺」「ほたるこい」をチャレンジ方式で演奏してきた。ほとんどの町内が小学校４～６年生を中心に先太鼓や篠笛を担当しているため，中学生の中にも篠笛経験者がいる。実際演奏するにあたり小学生では難しいところもあり，今回，音楽の授業で篠笛を扱うことを地域の方々に伝えると，とても好印象をもっていただいた。下記のアンケートは今回の授業を行うにあたって事前に生徒に行ったアンケート結果である。

＜1年生　６月実施＞

質　問　項　目	
和楽器の音楽を聴いたことがある。（箏，三味線，尺八など）	５０％
篠笛という楽器を知っていた。	４１％
篠笛の音楽を聴いたことがある。	３３％
祭りや行事で篠笛の音色を聴いたことがある。	５５％
身近な人で篠笛を吹ける人がいる。	３５％
篠笛が吹ける，または吹いたことがある。	１６％

（４）指導の構想

６月に篠笛の導入として基本的な構え方，指孔の抑え方，運指，吹き方（唇の形）息の使い方（息の速度，息を吹き込む角度，息の量）を確認し，基本的な技能を身に付け，篠笛の「呂音」の音域を学習した。生徒の中には，篠笛と聞いて，横笛であることやフルートに似た楽器であることを知っている生徒もいた。小学校で学習してきた息を吹き込めば音が出るように楽器に工夫が施されているリコーダーと違い，音を出すという部分にポイントがあり，学習の早い段階で挫折してしまう可能性のある楽器ではあるが，私たちの先人が自然素材を使用し，長きに渡って生活の中に根付いて唄い継いできた日本の伝統音楽の魅力を知るうえで，篠笛を学ぶことは大変貴重な経験になると考えている。

そこで，まずは篠笛の学習に意欲的に取り組めるよう，篠笛特有の奏法である「指打ち」を入れずに，篠笛の音が出せることに喜びを感じ，篠笛に親しんでもらうことを目標にして技能習得型の授業で６月に実施した。今回の授業では，◇◇大学の留学生から日本の伝統音楽を紹介してほしいという依頼を受け，６月の授業で理解したこと・できるようになったことをどのように使い，さらに何を学ぶとこの課題を追求できるのか，学びの必要性を生徒に感じさせ，伝統音楽の歴史や礼節を重んじる文化との関わり，自然素材を使用した楽器の特徴や西洋音楽との追求する音色の違いなどで学びを深めさせ，魅力の発見に導きたい。また，篠笛特有の「指打ち」奏法を生かし，篠笛らしさをイメージできるような演奏を追求させたい。

【３年間を通しての篠笛学習の構想】

第１学年：我が国の伝統音楽の歴史を知り，篠笛の基本的な奏法を身に付け呂音域で地域の祭囃子を演奏することができる。また，今後学習する郷土の音楽につなげたい。

第２学年：地域の祭囃子を原曲で演奏するために，「甲音（中音）」の音域まで技能を習得する。

第３学年：太鼓とのコラボレーションへとつなげ，地域の方と演奏したりしながら，●●まつりを身近なものとして捉えられるよう学びを深める。

7　題材の指導計画（全４時間）

時	◆ねらい　〇学習内容　・学習活動	知・技	思	態
		〈　〉内は評価方法		
1	◆留学生からの「日本の伝統音楽を紹介してほしい」という依頼のビデオメッセージを見て，我が国の伝統音楽について紹介するために，日本の伝統音楽の特徴や篠笛の文化・歴史に関心をもつ。			
	〇留学生からのビデオメッセージを見て，楽譜や伝承方法，階名，楽器の素材，音色などの視点から，日本の伝統音楽と西洋音楽を比較する。 ・調べたことについてワークシートに記入する。（ロイロノート） ・調べたことを共有する。（ロイロノート） 〇学習を振り返る。 ・調べて興味をもったことや意外だったこと，疑問に思ったことをワークシートⅠに記入する。 〇篠笛で既習曲の「たこたこあがれ」を練習し，新しい奏法について知る。 ・既習曲である「たこたこあがれ」で構え方・運指・指孔の押さえ方・息の使い方（息を吹き込む角度・量・速度）など篠笛を演奏するために必要な基本的な奏法を思い出す。 ・自分たちの演奏と参考演奏動画（篠笛奏者である●●●●さんのDVD）の「たこたこあがれ」を比較聴取し，新しい奏法（「指打ち」）について知る。			態〈観察〉〈ワークシートⅠ〉
2	◆演奏を比較しながら，篠笛らしい演奏にするための「指打ち」の奏法を理解するとともに，地域の祭囃子の一節を演奏する。（●●七番町祭囃子）			
	〇篠笛特有の奏法である「指打ち」の奏法を身に付ける。 ・篠笛奏者である●●●●さんの「たこたこあがれ」の演奏動画を見る。 ・「指打ち」を取り入れることにより，演奏が篠笛らしく聴こえることを理解し，篠笛の旋律の働きが生み出す特質や雰囲気を味わう。 ・学級全体で「たこたこあがれ」を口唱歌で歌ったり，ワークシートの楽譜に〇をつけたりして「指打ち」奏法を確認し演奏する。 〇自分たちの住む地域にも篠笛の音楽が伝承されていることを知り，地域の祭囃子を練習する。【●●七番町祭囃子】 ・「●●七番町祭囃子」の一節をリズム打ちで確認したり，指打ちの入れ方を確認したりして，「指打ち」奏法を入れて練習する。 ・練習した祭囃子をペアで動画撮影する。	技〈観察〉〈動画〉 知〈観察〉〈ワークシートⅡ〉		

	○学習を振り返る。 ・「指打ち」が入っていない時と入った時の曲の感じの違いや口唱歌で練習した感想をワークシートⅡに記入する。 ○地域の方の演奏動画を見て「指打ち」の入れ方に違いがあることを知り，第３時の学習内容の見通しをもつ。 ・地域の方が演奏する「●●七番町祭囃子」の演奏動画を見て，基本的な「指打ち」の奏法との違いを確認する。 ＜活動中の生徒のワークシートの記入例＞ ヒ ヤ ヒ ヤ ヒ ヤイ ヤイ 六 五 六 五 六 ㊅ ㊅ ・ ヒ ヤイ ヤ イヤ ヒ ヤイ ヤイ 六 ㊅ 五 ㊄ 六 ㊅ ㊅ ・			
3 本 時	◆篠笛の音色や奏法を生かして，「●●七番町祭囃子」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつとともに，音楽表現を創意工夫する。 ○地域の方の演奏と，練習した「指打ち」の基本奏法との相違点に気づき，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じとって，どのように篠笛を演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・地域の方が演奏する参考音源と「指打ち」の基本奏法の参考演奏を比較し，篠笛の旋律の特徴について聴き取ったことと感じ取ったことを学級全体で共有する。 ○篠笛の音色や，奏法に気を付けて，感じ取ったことを演奏で表現するためには，どのように演奏すればよいかを考えながら，「●●七番町祭囃子」の一節を創意工夫する。 ・地域の方の参考演奏動画や，ゲストティーチャー，教師の支援をもとに，指打ちを入れる箇所や回数などをどのようにするかいろいろ試してみる。 ・ゲストティーチャーの参考演奏を聴き，指打ちを打つ速度や口の形，息の吹き込み方についても創意工夫できることに気づかせる。 ・ワークシートⅢに思いや意図を篠笛でどのように表すかについて記入する。 ・ワークシートⅢをもとに思いや意図をどのように表すかについて，ペアで伝え合えあったのち演奏を発表し，感想をロイロノートで送り合う。 ・「●●七番町祭囃子」を全員で演奏する。 ○プロの演奏家の演奏を聴き，篠笛の音色の美しさを味わうことで我が国の伝統音楽に親しむ。 ・本時の授業を振り返りながら，ゲストティーチャーの演奏を聴き，篠笛の音色の美しさや旋律の華やかさを味わう。	技 〈観察〉	思 〈観察〉〈ワークシートⅢ〉	

4	◆篠笛の文化・歴史，素材や奏法による篠笛特有の音色に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に我が国の伝統音楽や篠笛の特徴について演奏や言葉で伝える。			
	○●●大学の留学生に向けて説明動画を作成するために役割分担をし，自分の役割を通して，我が国の伝統音楽の特徴や篠笛の特徴を説明したり，演奏したりする。 ・説明動画の構成を考え，役割分担をする。 ＜日本の伝統音楽の特徴を説明するグループ＞ （伝承法，楽譜，音階，楽器の種類や素材，楽器の音色） ＜篠笛の歴史や楽器の特徴を説明するグループ＞ （歴史，素材・音色，楽器のつくり） ＜地域にある祭囃子について説明するグループ＞ ・全員で「●●七番町祭囃子」を演奏し撮影する。 ・グループごとに分かれて撮影をする。			態 〈観察・動画〉

８　本時の計画（３時間目／４時間）

（１）本時のねらい

●●まつりで演奏される●●七番町の祭囃子について，プロの篠笛奏者であるゲストティーチャーと教師からの技術的支援や地域の方の演奏動画を参考にしながら表現の仕方を試行する活動を通して，●●七番町の祭囃子にふさわしい表現をどのようにするか，自分なりの思いや意図をもって篠笛でお囃子を演奏することができる。

（２）本時の構想

１時間目に我が国の伝統音楽の特徴や篠笛の歴史を学び，篠笛が庶民の生活の中で普及し，受け継がれてきた楽器であることを理解している。それをもとに，私たちの住む地域にも，篠笛の伝統が受け継がれていることを２時間目で学習し，●●七番町の祭囃子に取り組む。ここで，篠笛の奏法の「指打ち」が入ることで篠笛らしく聴こえることに気づかせ，「指打ち」の基本的な打ち方について，口唱歌で歌いながら空打ちをしたり，ワークシートを使ったりして演奏に取り入れる。

本時は，地域の方が演奏する●●七番町祭囃子と基本的な「指打ち」奏法での●●七番町祭囃子の演奏を比較させ，指打ちの打ち方や入れ方によって表現の幅が広がることに気づかせる。そして，指打ちの入れ方によって音色や曲想が変化することを生かすことで，生徒一人一人が思い描く●●七番町祭囃子を表現させたい。今年度篠笛を始めたばかりの１年生には技術的な支援が必要不可欠なことから，ゲストティーチャーをお招きし思いや意図を器楽表現するための技術支援をお願いすることとした。ゲストティーチャーには，太鼓芸能集団「鼓動」の元メンバーであり，現在は篠笛奏者として国内外で活躍されている●●●●様をお招きする。

（３）本時の流れ

学習活動	□教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	■評価規準 （観点/方法） ○留意点
導入　（5 分） 1　地域の方の演奏動画を見る。	地域の方の演奏する●●七番町の祭囃子を聴きましょう。	○授業者が基本奏法で●●七番町祭囃子を演奏する。
展開　（37 分） 2　地域の方の演奏動画と教師の基本奏法での演奏を比較聴取する。	演奏を比較して，気づいた違いは何でしょう。 ・音の高さが違う。 ・地域の方の演奏は，装飾音が多かった。 ・最初の部分にも「指打ち」が入っていた。 ・一度に２回打っていた。	○視覚的に「指打ち」の基本的な入れ方と比較できる楽譜を示す。
3　「指打ち」の違いによって変化する音色や曲の感じを意見交換する。	「指打ち」を入れる箇所や回数を変えると，曲の感じはどのように変化しますか。 ・装飾音がたくさんになって華やかになる。 ・明るい感じになる。 ・勢いが出る。 ・スピードが変わったように感じる。 【発問】 自分の感じた○○○な感じを演奏で表現するためには，指打ちをどこにどのように入れるとよいのでしょうか。	○「指打ち」の入れ方と打つ回数に着目させる。 ○打ちの入れ方には基本以外にも，演奏者の思いによってさまざまな入れ方があってよいことを確認する。（教師とゲストティーチャー）
4　●●七番町祭囃子を創意工夫する。	・指打ちをどこに入れると○○○な感じになるかな。 ・○○○な感じに聴こえるためには，打ち方をどうするといいのかな。 ・「指打ち」をたくさん入れたいけど，難しい。	○地域の方の演奏動画を参考にさせる。（ロイロノート）

<table>
<tr><td colspan="3">【学習課題】
●●七番町祭囃子を○○○な感じにするには，どのように指打ちを入れたらよいだろうか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜基本的な指打ち奏法＞
六　㊅五　六　㊅　・六　五　六　㊅　六　㊅五　六　㊅　・六　㊅　五　七　五
＜地域の方の指打ち奏法＞
㊅　㊅五　六　㊅　・㊅　五　六　㊅　㊅　㊅五　六　㊅　・㊅　㊅　五　七　五</td></tr>
</table>

5　創意工夫したことを言葉や演奏で伝える。 （ペア活動）	・打つ回数を１回だけでなく，２回にしてみようかな。 【発問】 創意工夫する方法は，指打ちを入れる箇所や打つ回数だけでよいのでしょうか。 ・素早く打つと勢いが増す。 ・素早く打つと祭りの感じになるかな。 【指示】 ワークシートに演奏をどのようにしたのかまとめましょう。 ・勢いのある感じを出すために，指打ちを素早くしたり，息を吹き込むスピードを速くしたりしました。 ・祭りのにぎやかな感じにしたかったので，打つ回数を増やしてみました。 【指示】 隣の人に演奏を発表しましょう。聴いた人は，感想をロイロノートで送りましょう。 【演奏を聴いた生徒の感想】 ・指打ちの回数を増やすと，装飾音が増えて人がたくさんいる感じがした。 ・指打ちをはじめの部分に入れると，明るくなる感じに音色が変わった。 ・指打ちを素早く打つと，ゆっくり打つ時と比べて祭りの勢いみたいなのを感じた。	○ゲストティーチャーや教師は技術的な支援をおこなう。 ○指打ちを打つ速度に変化をけることによって曲の感じが変わることを確認する。 ○ワークシートⅢを参考に，自分の思い描く「●●七番町祭囃子」の表現を伝えさせる。 ■自分なりの思いや意図をワークシートに記入し，それに基づき演奏している。 （ワークシート・観察） ○指打ちの入れ方によって，表現できる幅が広がることをおさえる。
終末（8 分） ゲストティーチャーの演奏を鑑賞し，篠笛の音色を味わう。	【指示】 ゲストティーチャーから演奏を披露していただきます。皆さんが練習した指打ちに注目して音色を味わって聴きましょう。 ・篠竹製の篠笛は，違った音色がする。 ・「指打ち」の入れ方を変えるだけで，こんなにも曲の感じが変わるのだな。	○プラスチック管と篠竹製の音色の違いについても比較し味わわせる。

（４）評価　「おおむね満足できる状況（Ｂ）」

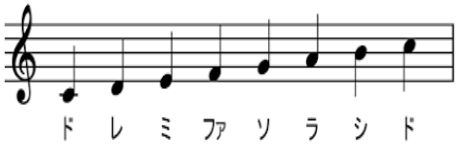
篠笛の音色や旋律と奏法との関わりを生かして，「●●七番町祭囃子」をどのように演奏するかについて，自分の思いや意図をワークシートに記入したり，ペア活動で発言したりして，それに基づき演奏している。〔思考・判断・表現〕

海外の留学生に我が国の伝統的な音楽を紹介しよう

ワークシートⅠ

学習課題

西洋音楽と我が国の伝統音楽を比べてみよう！

比較項目	我が国の伝統音楽	西洋音楽（主にヨーロッパ音楽）
音楽の伝承方法		口伝え→楽譜 ９世紀頃から記譜法（楽譜）が発達し、13世紀に五線記譜法（楽譜）が登場。音楽を書き残して伝えていけるようになった。
楽譜		9~13 世紀頃の楽譜（ネウマ譜） 写真 13 世紀頃の楽譜（五線ありネウマ譜） 写真
音階		７音音階が基本（ドレミファソラシ） 
楽器の種類や素材		大きく分けると管楽器、弦楽器、打楽器、鍵盤楽器に分けられる。 素材は、金属や人工物を利用して造られている。
楽器の音色		音程やリズムを非常に正確に奏で、一糸乱れず正確な音色を追究してきた。
その他		・旋律やリズム、歌詞などで脳を刺激して楽しむ音楽
篠笛について	名前の由来・起源・使用目的など	

振り返り

調べてみて興味をもったことや意外だったこと、疑問に思ったことを記入しましょう。

海外の留学生に我が国の伝統的な音楽を紹介しよう

ワークシートⅡ

「　　」を取り入れて●●祭囃子を練習しよう。

学習課題

「たこたこあがれ」の「　　」を入れる部分に〇をつけよう。

ヒ	ヤ	ヒ	ヤ	ヒ	ヤイ	ヤイ	
六	五	六	五	六	六	六	・
ヒ	ヤイ	ヤ	イヤ	ヒ	ヤイ	ヤイ	
六	六	五	五	六	六	六	・

「●●七番町祭囃子」

●●七番町祭囃子の楽譜

演奏動画

振り返り

「指打ち」が入っていない時と入った時の曲の感じの違いや口唱歌で練習した感想を記入しましょう。

海外の留学生に我が国の伝統的な音楽を紹介しよう

ワークシートⅢ

＜学習課題＞

「●●七番町祭囃子」

●●七番町祭囃子の楽譜

指打ちや息遣いをどのようにしたのか言葉で伝えよ

●●七番町祭囃子を「　　」な感じにするために，

指打ちや息遣いをどのようにしたのかを記入しましょう。

①

②

③

演奏を聴いた仲間からの一言コメント

ロイロノートで送ってもらった一言コメントを貼り付けましょう